

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103102		
法人名	医療法人春風会		
事業所名	グループホーム明和の家		
所在地	鹿児島市明和5丁目1-15		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階の入居者の方のADLがかなり低下してきており、1階での合同レク・外出・受診介助等、階段を下りる事に時間と介助を要す事が多くなりました。エレベーターがないので、1階・2階のスタッフが悪戦苦闘しながら、施設内だけに閉じこもらないように、協力して施設外活動やレク活動を計画し、楽しんでいただいております。また、駐車場が広い為、地域の方から「来客があり駐車スペースがないので貸して欲しい」と気軽に相談に来ていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台にある団地の小高い場所に建てられており、室内からの眺めはとても素晴らしく桜島や市街地が一望でき、入居者の安らぎの場となっている。民生委員や包括支援センターの方との良好な関係を築いており、地域の高齢者の方の問題について話し合いをしたり、防災訓練へも積極的に参加するなど、災害時の協力体制もとれている。健康管理面では医療機関との協力体制が確立されており、看取りの対応や、歯科衛生士の職員も配置され歯科医との連携を図りながら、入居者の口腔ケアの管理が行われるなど医療面でも安心できる。また、職員教育も充実しており事業所の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より地域密着を視野に入れて法人全体で理念を作成し、毎朝 申し送りの後に全員で唱和し、共有に努めています	理念をパンフレットや重要事項説明書に明記されており、玄関へも掲示してある。毎朝全員で唱和し勉強会でも理念を基に、認知症ケアの基本について全職員で話し合いを行い共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、定期総会・地域奉仕作業・班会等に参加し、地域に情報発信を行っています	町内会へ加入しており、回覧板を届けたり、地域の清掃への参加や、近隣の施設の催し物に出かけたり、小学校の大はんや節の行事などへも参加するなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	班会や運営推進会議を通じて、ホームの情報が必要に応じて提供しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、毎月発行される「明和の家の新聞」をお渡し活動状況を報告し、地域からの入所相談等の情報も提供し、そこで出された内容については、申し送りを通じて、職員へ報告致しております	運営推進会議は年6回開催し、うち2回は防災訓練を兼ねており、家族代表、民生委員、行政担当や地域住民の方が参加し災害対策などの改善点を話し合ったり、活発な意見交換や情報交換などが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者福祉課や、生活保護課に出かけて状況を伝えたり、家族に代わり申請を行っています。地域包括支援センターからは、どこかグループホームで空いている所はないか度、蜜に相談を受けて対応致しております	年1回の介護相談員の受け入れや、生活保護課、高齢者福祉課との連携を積極的に図っている。また包括支援センターから入居者希望の方の相談を受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングにて、身体拘束委員会より、3原則について確認し、個人別にファイルを作り配布される資料を持参し、常に身体拘束を正しく理解できるように、身体拘束の弊害について常に考えるように努めています	以前、病気により主治医の指導の下、身体拘束を行わざるを得なかった事例を基に、毎月拘束委員会主催による研修会を行い、全職員が身体拘束の三原則について正しく理解し合っている。マニュアルを作成し身体拘束をしないケアに熱心に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した事をミーティングで報告し、更に研修報告書を回覧し、不用意な言動・行動が虐待につながる事の危険性を認識するように努め、共通の認識に努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はもとより、計画作成者は自己負担でも研修に参加し、内部研修報告書や資料を回覧し、必要に応じて活用できればと考えております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来て頂き、説明を聞いて納得された方は入所申し込みを受け付けております。入所の順番が来たら再度来訪して頂き、契約に伴う一連の説明を行い理解・納得が図れるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けたり、ホーム便りに担当者がメッセージを記入し、意見の交流が出来るように努めております。出された意見は運営推進会議や管理者会議にて代表者へ伝えております	ホーム内に意見箱を設置したり、面会時や家族会、ホーム便りで交流を図りながら意見や要望を聞き、出された内容は朝夕のミーティングで話し合いや管理者会議で検討するなどケアに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで出された意見を管理者会議で報告したり、稟議書にて報告し、サービス向上に努めています	月に1回の職員会議で、意見や提案を聞くなど話し合いの機会を設けている。また、業務中その場で出た意見も朝夕のミーティングで検討し運用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課を取り入れ、稟議書を通じて昇格をお願いし、職員の定着率・意欲の向上に向けて代表者に発信し、昇給等職場環境整備に努めていただいております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内については、勤務扱いでの参加・費用を負担して頂いたり、個人的に参加させたい研修についても、稟議書で気軽に申し出る事が出来るようになっており、働きながらトレーニングして行ける雰囲気があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通じて、同業者との交流を図れるように配慮されており、他の事業所の取り組みを参考にサービス向上に努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談があった時点で可能な範囲で入所・入院先を訪問し、SWの方や主治医からの意見をお聞きし、家族・本人の意向と照らし合わせて、納得して入所できるように、信頼関係の構築を図る事を重要視致しております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間で意思統一が図れているか、グループホーム入所以外他に手立ては無いのか等意見を聞き取り、住み替えがもたらす弊害を説明し、他の施設紹介も行いつつ、本人・家族が納得して頂いてからの入所を目指しております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何故 グループホームなのか「今その時」なのか、少しでも家族の介護負担を軽減できるように他のサービス紹介も行ない、抱え込みにつながらないように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の持てる力に合わせて一緒に家事活動をしたり、身の回りのできる事を付き添い一緒に行き、入居者同士が交流できるように配慮に努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が県外在住であったり、兄弟や姪等、それぞれの実情に合わせて本人の情報交換を行い、安心して就労できるように、また、個人の時間に合わせて面会時間を広げるような配慮を行っております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の方や家族の面会後・外出後は不穏行動につながり興奮が持続するが、制限する事無く自由に面会・外出が出来るように支援致しております	親戚の家や行きつけの美容院など行きたい所や馴染みの場所へ家族と一緒に外出できるよう支援している。外出後、不穏状態になる利用者もいるが職員全員でケアにあたり、馴染みの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者の悪口を言いふらす・睨む、大きな声で威嚇する等様々ですが、その都度スタッフが早く気がついて、双方が良好な関係を維持できるように、決して孤立する事のないように努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、5年経過してもまだ慰問に来て下さったり、再入所手続きに来て下さったり、退居後もフォローに努めております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思確認を行い、危険を伴う場合家族と相談し、より安全な支援方法を検討し、できるだけ満足につながるようと考えております	利用者の生活歴や習慣等を把握し、入所から1週間どんな些細な言動でも気がついた職員が気づきシートに記録し、本人の意向や希望の把握に努めている。日々の表情や行動からも観察し、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を重視する為、事前のアセスメントの分析をミーティングにて情報共有し、できる事できない事の見極めを行い、自分の生き方の継続が出来るように支援するように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム・排泄パターンや既往歴等を把握し、できる動作能力を見極めつつ自信を持って生活できるように努めております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝夕の申し送り時・ミーティング・申し送りノートを活用し、課題のあり方を随時検討し、本人の発する言葉の意味を掘り下げて考えるように努め、必要に応じてプランの変更につなげております	本人の意向や希望などの情報を集めた時点でケアプランに書き込み、ミーティングを行い現状に合わせたプランを作成している。また、定期的なモニタリング及び評価を行い利用者の状態に応じたプランに随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録とは何の為に残すのか、情報共有とは、の意義を常に考え、ケアの統一に努めております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一したケアを行う事の重要性を常に考え、ケアは毎日同じではない、時間・日によって変化する事を認識し、その時に応じて柔軟にケアを行う事を念頭に置いております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室に出かける事が出来ない方が多く、地域の美容室の方にホームに来て頂き、好みの長さや髪形に合わせてカットしてもらったり、ボランティアの訪問に、「昔 よく踊っていた～」と言われ、踊りの輪に入られる事も多く笑顔が違います		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前の主治医を基本に、家族と話し合い決めて頂いております。内服に合わせて受診計画を行い、心配な症状があれば即座にホットラインを利用し、医師に相談し、適切に受診が出来る体制を取っております	本人が希望するかかりつけ医があり家族の協力を得ながら受診支援を行っている。緊急時などでも対応できる協力医療機関がある。職員に歯科衛生士がおり、利用者の口腔管理を行いながら歯科医との連携も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は常勤しておりませんが、変化があれば支持母体の外来看護師・訪問診療の看護師・薬剤師・歯科衛生士に報告・連絡・相談を行い、安心して生活を送れるように支援致しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に個人状況表を2枚作成し、入院先の看護師・SW・医師との連携を図り、安心して治療が受けられるように、また、やむなく退居につながるような場合でも、家族とこまめに連携を図りながら再度入所申し込みをして頂き、再入所の支援を行っております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明を行い、本当にこの場所での看取りで良いのか、家族間の同意は得られているのか、24時間主治医との連携を図り続ける事が出来るのか等、何回も何回も家族・主治医・職員と話し合いながら2件看取りを行いました	入所時に看取りについての方針の説明を行っている。看取りの経験もあり、主治医のアドバイスを受けながら医療機関と連携を図り、家族の同意をその都度確認しながら、看取りに対する支援をしている。職員への勉強会や研修などの教育も熱心に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署による、応急手当講習会を開催し、職員全員の周知徹底に勤めております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 避難訓練を実施し、全員参加での訓練を行うようにしています。また、この時に合わせて運営推進会議も開催し、地域への案内状を付配布し、訓練に参加して頂いております	年2回の避難訓練を実施し、地域の方や民生委員も参加し消防署より指導を受けている。連絡網の中には民生委員も入っており地域との協力体制がとれている。また、他の事業所とも連携をとり研修を行っている。	

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重されるべきものであり、最後まで羞恥心が残存する事、わが身・わが家族に置き換える事より良いケアにつながる事を、職員にその都度助言致しております	利用者の以前の立場や地位を理解し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を心がけている。また、利用者の心理をよく理解し良いケアができるよう日頃から研修会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で納得しないと譲られる事はないので、常に意思確認を行いながら、安全面を優先しつつも自己決定の方向で考えております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時、その場所に応じて、安全面を考慮する上でも業務が優先する事もあります。しかし、その都度説明を行い、個人のペースを見守りつつ、支援するように努めております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくらスタッフが更衣を支援しても、自分で納得されていなければ何回でも自分で更衣されます。やもすれば同じ衣類を洗濯しないでタンスにしまい込んで臭いがする事も多々あり、季節に応じて、一緒にタンスの整理も行っております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理、家庭菜園・味見・お盆拭き・洗濯物たたみ等一緒に行い、主婦としての関わりを持てるように努めております	利用者の力量に応じて野菜の下処理や洗いもの、後片付けなどそれぞれ担当を決めて食事の準備をしている。菜園で野菜作りや収穫をしたり、季節に応じて栗むきや味噌作り、梅干作りも行われて利用者にも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示に従い、疾患に応じて水分量や栄養量・摂取量を決定し、箸やスプーン等個別に対応したり、食べ方の習慣を考慮したりしながら、自己摂取出来る事をに優先に考えております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、義歯も自分で洗浄後職員に預けたり、自己管理されたりと、個々の動作能力を見極め、必要な支援を行っております。また、悪化時は歯科衛生士に相談し、適切に歯科診療が出来るように支援致しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、個人の希望に応じてトイレでの排泄、状況に応じてパット使用を検討したり、漫然とオムツに依存する事無く、排泄自立に向けてケア統一に努めております	利用者の排泄パターンを把握し、定時に声かけしながらトイレ誘導を行っている。入所前は、夜間にオムツを使用していた方が、リハビリパンツを使いトイレへ行くようになった事例もあり自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を作成する上で、食物繊維や水分量等をこまめにチェックし、腸の蠕動運動を促す上でも適度に歩行する事を推進し、個人の排泄パターン把握に努めておりますが、やはり便秘傾向にはあります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回、本人の希望どうりの順番で入浴する事は難しいですが、皆が平等に気持ちよく入浴する事が出来るように、本人に説明を行い、午前 午後で対応できるように努めております	週3回の入浴で、入る順番はその日で決定するが、利用者全員が平等に入れるよう心がけている。入浴拒否される方は、職員で声かけを行い服の着替えを促しながら全身入浴を行うなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて柔軟に対応する事を重視致しております。その際 疾患との関連もあるので、起きたくない理由・食べたくない理由を掘り下げて確認し、支援するように努めております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が常に医療カルテ・お薬手帳で確認し、症状や副作用等についても、いつでも確認できるように、また、与薬する際、職員二人で声に出して確認する等、誤薬が無いように常に気持ちを引き締めております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を視野に入れて、レク活動も個別に計画したり、完成させる楽しみを持って生活できるように努めております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか個別に戸外に連れ出す事は不可能になりつつありますが、それでも大きなイベント時はスタッフやボランティアを活用し、バスで出かけるように努めております。また、ADLに合わせて戸外の場所を計画したり、ご家族の協力もお願い致しております	年2回はボランティアの手伝いをもらい、お花見や外食へ出かけている。日常は職員と一緒に庭へ出て花や景色を眺め、日光浴を行ったり、近隣の施設へ出かけたりするなど、利用者が閉じこもりにならないようなレクレーションを思案している。	事業所にエレベーターがない理由もありますが、2階の利用者の日常的な外出が難しいようである。現在、エレベーターの設置も考慮中とのことで、今後は利用者の希望に沿った外出ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭管理をされている方もあります。家族と共に銀行にも行かれる事もあります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が自由に電話を掛けて、子機を使う事で居室で遠慮なく話す事が出来るように配慮致しております。しかし、不穏時等更に混乱を招いてしまう方もあり、状況をお伝えしご遠慮頂く事もあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に玄関まで行き、桜島を眺めたり、ホーム周辺を歩いたり、過度の刺激にならない範囲での展示物に努めております	室内のフロアは明るく整理整頓されており、畳の間やソファが設置され、また、外の眺めもよく居心地のよい空間作りである。季節を感じる飾りつけや花を所々に生けてあり、家庭的で落ち着いた雰囲気づくりである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と、ゆっくりとお部屋を訪問しあったり、疲れたら部屋に戻り休まれたり、個々のペースで過ごせるように努めております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物をも持ち込んで、タンスの中も自分なりの収納方法があり、職員ペースで指示する事のないように、危険につながらない限り制限は致しておりません	利用者の使い慣れた家電製品やソファ、思い出の写真や位牌などを持ち込まれている。また、利用者の手作りの物などを飾るなど居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレや居室等本人の視線に合わせて、自分の判断で、行動できるように配慮致しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より地域密着を視野に入れて法人全体で理念を作成し、毎朝 申し送りの後に全員で唱和し、共有に努めています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、定期総会・地域奉仕作業・班会等に参加し、地域に情報発信を行っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	班会や運営推進会議を通じて、ホームの情報必要に応じて提供しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、毎月発行される「明和の家の新聞」をお渡し活動状況を報告し、地域からの入所相談等の情報も提供し、そこで出された内容については、申し送りを通じて、職員へ報告致しております		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者福祉課や、生活保護課に出かけて状況を伝えたり、家族に代わり申請を行っています。地域包括支援センターからは、どこかグループホームで空いている所はないか度、蜜に相談を受けて対応致しております		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングにて、身体拘束委員会より、3原則について確認し、個人別にファイルを作り配布される資料を持参し、常に身体拘束を正しく理解できるように、身体拘束の弊害について常に考えるように努めております		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した事をミーティングで報告し、更に研修報告書を回覧し、不用意な言動・行動が虐待につながる事の危険性を認識するように努め、共通の認識に努めております		

No.	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はもとより、計画作成者は自己負担でも研修に参加し、内部研修報告書や資料を回覧し、必要に応じて活用できればと考えております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来て頂き、説明を聞いて納得された方は入所申し込みを受け付けております。入所の順番が来たら再度来訪して頂き、契約に伴う一連の説明を行い理解・納得が図れるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けたり、ホーム便りに担当者がメッセージを記入し、意見の交流が出来るように努めております。出された意見は運営推進会議や管理者会議にて代表者へ伝えております		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで出された意見を管理者会議で報告したり、稟議書にて報告し、サービス向上に努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課を取り入れ、稟議書を通じて昇格をお願いし、職員の定着率・意欲の向上に向けて代表者に発信し、昇給等職場環境整備に努めていただいております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内については、勤務扱いでの参加・費用を負担して頂いたり、個人的に参加させたい研修についても、稟議書で気軽に申し出る事が出来るようになっており、働きながらトレーニングして行ける雰囲気があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通じて、同業者との交流を図れるように配慮されており、他の事業所の取り組みを参考にサービス向上に努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談があった時点で可能な範囲で入所・入院先を訪問し、SWの方や主治医からの意見をお聞きし、家族・本人の意向と照らし合わせて、納得して入所できるように、信頼関係の構築を図る事を重要視致しております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族間で意思統一が図れているか、グループホーム入所以外他に手立ては無いのか等意見を聞き取り、住み替えがもたらす弊害を説明し、他の施設紹介も行いつつ、本人・家族が納得して頂いてからの入所を目指しております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何故 グループホームなのか「今その時」なのか、少しでも家族の介護負担を軽減できるように他のサービス紹介も行ない、抱え込みにつながらないように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の持てる力に合わせて一緒に家事活動をしたり、身の回りのできる事を付き添い一緒にいき、入居者同士が交流できるように配慮に努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が県外在住であったり、兄弟や姪等、それぞれの実情に合わせて本人の情報交換を行い、安心して就労できるように、また、個人の時間に合わせて面会時間を広げるような配慮を行っております。かなり遅い時間の面会者1家族あり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の方や家族の面会后・外出後は不穏行動につながり興奮が持続するが、制限する事無く自由に面会・外出が出来るように支援致しております		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で相性が悪い方もいらっしゃいますが、スタッフが間に入ることでもトラブル回避に努めております。また、ご自分でたたくことが出来ない方の洗濯物を代わりにたたんで下さる方もおられます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、5年経過してもまだ慰問に来て下さったり、再入所手続きに来て下さったり、退居後もフォローに努めて、再入所2名受け入れております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思確認を行い、危険を伴う場合家族と相談し、より安全な支援方法を検討し、できるだけ満足につながるようと考えております		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を重視する為、事前のアセスメントの分析をミーティングにて情報共有し、できる事できない事の見極めを行い、自分の生き方の継続が出来るように支援するように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム・排泄パターンや既往歴等を把握し、できる動作能力を見極めつつ自信を持って生活できるように努めております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝夕の申し送り時・ミーティング・申し送りノートを活用し、課題のあり方を随時検討し、本人の発する言葉の意味を掘り下げて考えるように努め、必要に応じてプランの変更につなげております		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録とは何の為に残すのか、情報共有とは、の意義を常に考え、ケアの統一に努めております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一したケアを行う事の重要性を常に考え、ケアは毎日同じではない、時間・日によって変化する事を認識し、その時に応じて柔軟にケアを行う事を念頭に置いております		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と共に入居前からの行きつけの美容室に出かけたり、地域のガイドヘルパーと共に本人の希望する場所に出かけられるよう支援しております。また、美容院へ外出出来ない方は、地域の美容師さんに来て頂き、世間話をしながら楽しい時間を過ごしております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される前の主治医を基本に、家族と話し合い決めて頂いております。内服に合わせて受診計画を行い、心配な症状があれば即座にホットラインを利用し、医師に相談し、適切に受診が出来る体制を取っております		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は常勤しておりませんが、変化があれば支持母体の外来看護師・訪問診療の看護師・薬剤師・歯科衛生士に報告・連絡・相談を行い、安心して生活を送れるように支援致しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に個人状況表を2枚作成し、入院先の看護師・SW・医師との連携を図り、安心して治療が受けられるように、また、やむなく退居につながるような場合でも、家族とこまめに連携を図りながら再度入所申し込みをして頂き、再入所の支援を行っております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明を行い、本当にこの場所での看取りで良いのか、家族間の同意は得られているのか、24時間主治医との連携を図り続ける事が出来るのか等、何回も何回も家族・主治医・職員と話し合いながら2件看取りを行いました		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署による、応急手当講習会を開催し、職員全員の周知徹底に勤めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 避難訓練を実施し、全員参加での訓練を行うようにしています。また、この時に合わせて運営推進会議も開催し、地域への案内状を付配布し、訓練に参加して頂いております		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人として尊重されるべきものであり、最後まで羞恥心が残存する事、わが身・わが家族に置き換える事でより良いケアにつながる事を、職員にその都度助言致しております		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で納得しないと譲られる事はないので、常に意思確認を行いながら、安全面を優先しつつも自己決定の方向で考えております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時、その場所に依じて、安全面を考慮する上でも業務が優先する事もあります。しかし、その都度説明を行い、個人のペースを見守りつつ、支援するように努めております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくらスタッフが更衣を支援しても、自分で納得されていなければ何回でも自分で更衣されます。やもすれば同じ衣類を洗濯しないでタンズにしまい込んで臭いがする事も多々あり、季節に応じて、一緒にタンズの整理も行っております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理、家庭菜園・味見等一緒に行い。家事活動への参加をお願い致しております		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示に従い、疾患に応じて水分量や栄養量・摂取量を決定し、箸やスプーン等個別に対応したり、食べ方の習慣を考慮したりしながら、自己摂取出来る事を優先に考えております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを促し、義歯も自分で洗浄後職員に預けたり、自己管理されたりと、個々の動作能力を見極め、必要な支援を行っております。また、悪化時は歯科衛生士に相談し、適切に歯科診療が出来るように支援致しております		

目 次	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、個人の希望に応じてトイレでの排泄、状況に応じてパット使用を検討したり、漫然とオムツに依存する事無く、排泄自立に向けてケア統一に努めております		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を作成する上で、食物繊維や水分量等をこまめにチェックし、腸の蠕動運動を促す上でも適度に歩行する事を推進し、個人の排泄パターン把握に努めておりますが、やはり便秘傾向にはあります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回、本人の希望どうりの順番で入浴する事は難しいですが、皆が平等に気持ちよく入浴する事が出来るように、本人に説明を行い、午前 午後で対応できるように努めております		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて柔軟に対応する事を重視致しております。その際 疾患との関連もあるので、起きたくない理由・食べたくない理由を掘り下げて確認し、支援するように努めております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が常に医療カルテ・お薬手帳で確認し、症状や副作用等についても、いつでも確認できるように、また、与薬する際、職員二人で声に出して確認する等、誤薬が無いように常に気持ちを引き締めております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を視野に入れて、レク活動も個別に計画したり、完成させる楽しみを持って生活できるように努めております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか個別に戸外に連れ出す事は不可能になりつつありますが、それでも大きなイベント時はスタッフやボランティアを活用し、バスで出かけるように努めております。また、ADLに合わせて戸外の場所を計画したり、ご家族の協力もお願い致しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭管理をされている方もあります。家族と共に銀行にも行かれる事もあります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が自由に電話を掛けて、子機を使う事で居室で遠慮なく話す事が出来るように配慮致しております。しかし、不穏時等更に混乱を招いてしまう方もあり、状況をお伝えしご遠慮頂く事もあります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの大きな窓から桜島を他利用者と話をしながら眺められたり、飾ってある花や展示物を話題に話をされ、思い思いに過ごして頂いております		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と、ゆっくりとお部屋を訪問しあったり、疲れたら部屋に戻り休まれたり、個々のペースで過ごせるように努めております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物をも持ち込んで、タンクの中も自分なりの収納方法があり、職員ペースで指示する事のないように、危険につながらない限り制限は致しておりません		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等本人の視線に合わせて、自分の判断で、行動できるように配慮致しております。		